

# いろいろな花

小川未明

青空文庫



さまざまの草くさが、いろいろな運命うんめいをもつてこの世よに生まれて  
 きました。それは、ちようど人間にんげんの身みの上うえと変わかりがなかつた  
 のです。

広い野原ひろのほらの中に、紫むらさきいろの色いろのすみれの花はなが咲さきかけましたとき  
 は、まだ山やまの端はに雪ゆきが白しろくかかつていました。春はるといつても、ほ  
 んの名なばかりであつて、どこを見みても冬ふゆ枯がれのままの景色けしきであり  
 ました。

すみれは、小鳥ことりがあちらの林はやしの中なかで、さびしそうにないている  
 のをききました。すみれは、おりおり寒さむい風かぜに吹ふかれて、小ちいさな  
 体からだが凍こえるようでありましたが、一日いちにち一日いちにちと、それでも雲くもの色いろが、

だんだん明るくなつて、その雲間からもれる日の光が野の上を暖かそうに照らすのを見ますと、うれしい気持ちになりました。

すみれは、毎朝、太陽が上るころから、日の暮れるころまで、そのいい小鳥のなき声をききました。

「どんな鳥だろうか、どうか見たいものだ。」と、すみれは思いました。

けれど、すみれは、ついにその鳥の姿を見ずして、いつしか散る日がきたのであります。そのとき、ちょうどかたわらに生えていた、ぼけの花が咲きかけていました。ぼけの花は、すみれが独り言をしてさびしく散つてゆく、はかない影を見たのであります。ぼけの花は、真紅にみごとに咲きました。そして日の光に照ら

されて、それは美しくうつくかったです。

ある朝、あきぼけの枝に、えだきれいな小鳥が飛んできて、いい声でなきました。そのとき、ぼけの花は、その小鳥に向かむって、

「ああ、なんといい声なんですか。あなたの声に、どんなに、すみれさんは憧れていましたか。どうか一目あなたまの姿を見たいものだといっていました。が、かわいそうに、二日ばかり前にさびしく散ちってしまいました。」と、ぼけの花は、小鳥に向かむっていました。

小鳥は、くびをかしげて聞いていましたが、

「それは、私わたしでない。こちようのことではありませんか。私わたしみたいな醜みにくい姿を見たとて、なんで目めを楽たのしませることがあるもんで

すか。」と、小鳥は答えた。

「こちようの姿は、そんなにきれいなんですか。あなたの姿よりも、もつときれいなんですか。」と、ぼけの花は驚いてききました。

「私はいいい声で唄をうたいますが、こちようは黙っています。そのかわり私よりも幾倍となくきれいなんです。」と、小鳥は答えて、やがてどこにか飛び去ってしまいました。

ぼけの花は、そのときから一目こちようを見たいものだ、その姿に憧れました。けれど、まだ野原の上は寒くて、弱いこちようは飛んでいませんでした。

ある風の強い日の暮れ方に、そのぼけの花は音もなく散って、

土つちに帰かえらなければなりませんでした。ついに、ぼけの花はなは、こちようを見みずにしまったのです。

それから、幾いくにち日ひかたつと、野のの上うえは暖あたたかで、そこには、いろいろな花はなが咲さき誇ほこっていました。はねの美うつくしいこちようは、黄色きいろく炎ほのおの燃もえるように咲さき誇ほこったたんぽぽの花はなの上うえに止とまっています。

ほかのいろいろの多おほくの花はなは、みんなそのたんぽぽの花はなをうらやましく思おもっていたのです。その時じぶん分ぶんには、いつか小鳥こどりの聲こえをきいて、その姿すがたを見みたいといっていたすみれの花はなも、また、小鳥こどりからこちようの姿すがたをきいて、一ひとめ目み見みたいといっていたぼけの花はなも、朽くちて土つちとなつて、まったくその影かげをとどめなかつたのでありま

した。

たんぽぽの花は、こちようと楽しく話をしていました。それは静かな、いい日でありました。たちまち、カツポ、カツポという地に響く音が聞こえました。

「なんだろう。」と、たんぽぽの花はいいいました。

「なにか、怖ろしいものが、こちらへやってくるようだ。」と、こちようはいいいました。

「どうかこちようさん、私のそばにいてください。私は怖ろしくてしかたがない。」と、たんぽぽの花は震えながらいいました。

「私は、こうしてはいられませんよ。」と、こちようはいつて、花の上から飛びたちました。

そのとき、カツポ、カツポの音は近づきました。百姓にひかれ  
て、大きな馬がその路を通つたのです。そして、路傍に咲いてい  
るたんぽぽの花は馬に踏まれて砕かれてしまいました。  
野原の上は静かになりました。あくる日もあくる日もいい天気  
で、もう馬は通らなかつた。



# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 2」講談社

1976（昭和51）年12月10日第1刷

1982（昭和57）年9月10日第7刷

※表題は底本では、「いろいろな花《はな》」となっています。

入力：ぷろぼの青空工作員チーム入力班

校正：富田倫生

2012年5月23日作成

2012年9月27日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

# いろいろな花

小川未明

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>